

城光寺城を知る



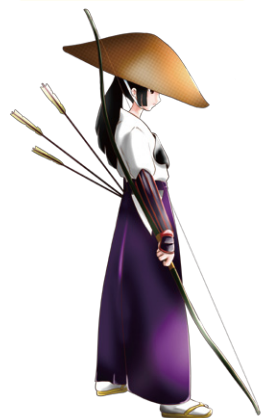
北東から南西方面（小月方面）を望む

～菊川地域最大の城郭～

【城郭データ】

城郭銘：城光寺城（じょうこうじじょう）
 時代：戦国時代（推定）
 主な城主：不明
 主な遺構：竪堀、切岸、堀切、虎口ほか
 登山条件：県道脇より山道、一部整備
 所在地：菊川町大字下保木

城に自生する矢の材料、矢竹。城の守りに弓矢の使い手たちが活躍した事が想像できる。



【城光寺城の概要と特徴】

菊川町の南東部、菊川盆地を囲む東側山脈端の丘陵に山城が造られている。目の前には木屋川と南北に広がる平野部を見渡す。山頂に主郭を造り、山頂から三方向に延びる尾根上に曲輪を置き防御している。

菊川盆地を取り囲む山地には多くの山城があるが、その中でも規模の大きな城郭であることから、菊川地域の主城であり、菊川地域における有力者が治めていたと考えられる



【下保木村地下図（山口県文書館所蔵）】

元文四年（1739年）の「防長地下上申」に「此所に城光寺山という城山があるが城主の名などはわからない」との記載があるほか、同年の「下保木村地下図」にも「城山」として記されている。

城光寺城のあるところ～木屋川流域最大の城

下保木地区は、中世は西光寺文書には「岡枝郷保木村」とあるが、近世の地下上申には上保木と下保木に分かれている。村内の小字に城光寺も見え、また門前、大門などの城に関わる地名も見える。



A. 元は安養寺と称し、中世には大内氏の庇護を受けていたが、毛利秀元の際に西光寺となった。古文書が多く残る。



B. 旧村社。西光寺開祖によるとされるが江戸時代に現在地に移り現在の形に整備された。清末毛利家の寄進を受けた。



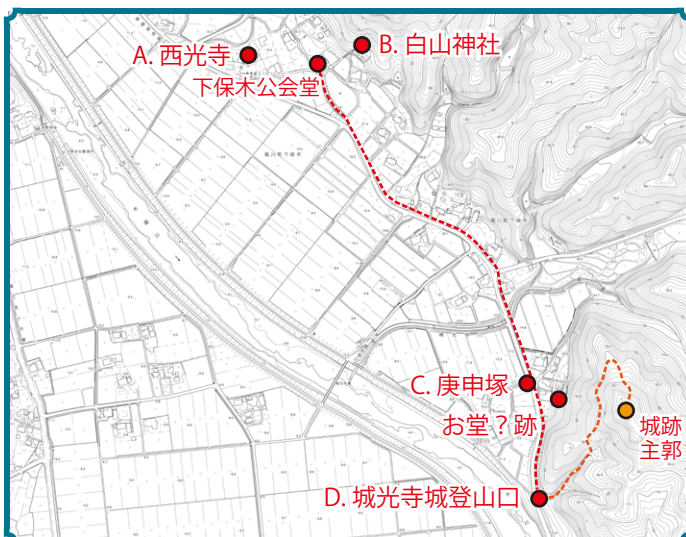
C. 庚申塚に眼前の丘陵を指し「城光寺城」の看板がある。麓の集落には空積み石垣があり、かつてお堂があったとされる。



D. 城光寺城跡の登山口。木屋川が最も近く道路脇に谷部に沿った登山道がある。カーブミラーが目印。

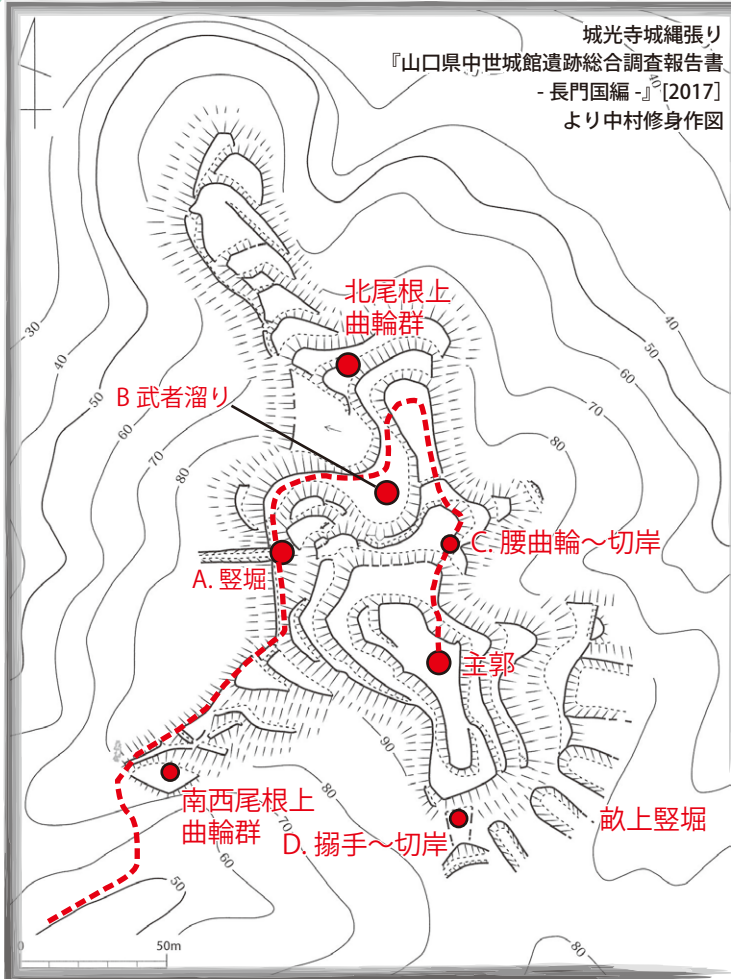
【アクセス】

まずは菊川道の駅の駅へ。上岡枝の交差点を西に向かって県道233号線を南に下る。下保木公会堂に駐車し、徒歩15分程で登山口へ。



城光寺城縄張り

『山口県中世城館遺跡総合調査報告書
-長門国編-』[2017]
より中村修身作図



【城光寺城の縄張り】

城光寺城は木屋川の東岸に接した丘陵上に造られ、南東側背後に続く山脈と合わせて自然の要害に守られている。唯一北西側のみ菊川盆地に向かって広がっており、この方面に向け守りを固めている。反対側の南東側が搦手となり、谷部を挟む南側には弱点を補うために堀切と畝上竪堀をおく。

主郭がある山頂から延びる尾根上に曲輪を重ねるほか、主郭の周りにも等高線に沿うように腰曲輪をいくつも連ねる。

特徴として、西側の木屋川に向かって伸びる一条の竪堀と谷地形を利用した武者溜りのような空間がある。

東西 280m、南北 180m の範囲に広がる規模の大きな城郭で、曲輪などの数も多いことから、菊川地域一帯を治めた有力者による拠点城郭といえる。

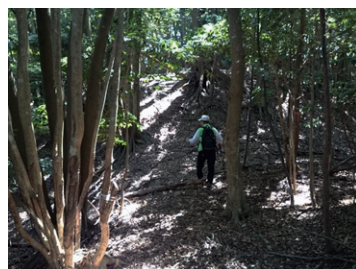
城光寺城を攻める！



A：西側の木屋川に向かって伸びる竪堀。北側尾根と南西側尾根間の移動を遮る。



B：北西側谷地形端部を利用した武者溜りのような空間。周囲は切岸で囲まれる。



C：主郭の周りに巡る腰曲輪からの切岸。主郭が嚴重に防御されているのがわかる。



D：主郭南側の谷から見た切岸。搦手方面となるが、弱点を補う防御も堅い。

もっと城光寺城を知りたい…

【参考となる資料】

- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 -長門国編-」(2017) 山口県教育委員会
- ・「きくがわもっと知りたいガイドブック」(2012)
ふるさとづくり推進協議会ふるさと再発見事業作業部会
- ・「きくがわもっと知りたいMAP」(2018)
菊川地区まちづくり協議会「地域活性部会」
- ・「菊川町史」(1970) 菊川町教育委員会

【その他のご参考】

- ・ふるさと再発見作業部会さま
2008年設立。古文書などから菊川の山城を調査し発見。その成果を冊子やガイドツアーなどで情報発信しています。ご連絡は、菊川総合支所にお尋ねください。



ふるさと再発見部会さまにより菊川町域の山城が調査、整備されています。



ガイドブックやマップにはその他の山城も掲載されています。